

# Pre 医療専攻だより



新潟県立小出高等学校 1 学年 Vol. 3



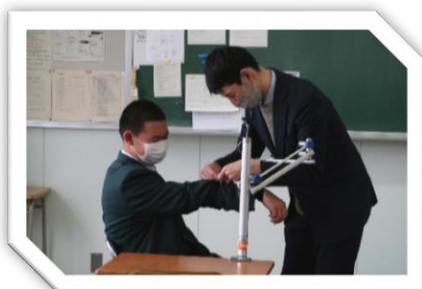
2月28日(水)に医療専攻を希望する1年生33名対象に、医療講演会を行いました。今回の講演では、新潟医療福祉大学より岩野千尋先生・安中裕紀先生・大屋未輝先生の、3名の先生にお越しいただきました。先生方からは、「看護の仕事」「リハビリの仕事」「社会福祉の仕事」の3つの仕事の内容について、チーム医療という視点から貴重なお話を伺うことができました。さらに、それぞれの仕事内容・役割について、体験を通して学ぶことができました。以下に内容を簡単にまとめます。

## それぞれの体験の様子

### <看護の仕事>



### <リハビリの仕事>



### <社会福祉の仕事>



## リハビリの仕事（講義一部抜粋）

### ◆リハビリテーションとは

- ・リハビリテーションという言葉は、RE-Habilitation（再び-適した・居住）
- ・病気の治療が終わっても、お風呂に入ることができない、学校に通えない、友達と遊ぶことができない、趣味ができない、好きな物を食べることができない、病気の後遺症や治療にともなう身体の衰えにより健康寿命が下がるなど、その人らしい人生が損なわれてしまう。

### ◆リハビリテーションの3職種

- 理学療法士：けがをした人に対して、歩く力を取り戻す、運動機能の回復をする。
- 作業療法士：生活全般のオールマイティなリハビリテーションを行う。
- 言語聴覚士：食事・言語などに関わることのリハビリテーションを行う。

## 看護の仕事（講義一部抜粋）

### ◆看護師として心がけてほしいこと（看護師だけでなく、社会に出て必要となる姿勢）

- ・相手の立場に立って考える
- ・多様な価値観をもつ
- ・常に学び続ける姿勢を持つ
- ・自分自身の健康管理
- ・時間を意識して行動する
- ・適切なストレス対処行動を確立



## 社会福祉の仕事（講義一部抜粋）

### ◆福祉の仕事の場・・・人の生活に寄り添う仕事であり、活躍の場は多岐にわたる

- ・学校のソーシャルワーカー
- ・病院の相談員（医療ソーシャルワーカー）
- ・精神科の病院
- ・企業
- ・社会福祉協議会
- ・司法領域 etc.

### ◆ソーシャルワーカーとしての心構え・身につけるべき力

- ・病院から退院した後も生活が送れるようにサポートしたり、何かで困っている人の生活をサポートしたり、必要なサービスが受けられるように考えたりする、「暮らしの専門家」がソーシャルワーカーである。
- ・ソーシャルワーカーとして、人をサポートするための言葉がけであったり、人と人とのつながりを上手に束ねたり、目の前の人の得意なことを分析し伸ばしたりすることができる、幅広いコミュニケーション能力が求められる。

## 生徒の感想（抜粋）



・看護職で必要とされていることは、対象者について知ることだということが分かりました。対象者に身体的・精神的・経済的・社会的苦痛はあるのか、普段はどのように生活しているのか、どのような価値観を持っているのかなど、対象者の内部に関わることを知ることが必要なのだと分かりました。

・今までリハビリとは、患者さんの体を使えるようにして終わり、と思っていたけれど、今回の講演で、それだけではまだ生活が大変な人もおり、心のケアや病気やけがをする前の生活に戻すまでが大切で、それができてチーム医療が完了するのだと考えました。

・社会福祉の仕事をあまり知らなかったが、講演を聞いて、ソーシャルワーカーとは、人の暮らしをサポートしたり、その人の良いところを伸ばしてあげたり、足りないものを付け加えてあげる仕事だということが分かりました。また、ソーシャルワーカーは学校や行政など、たくさんの場所で活躍することができることを知りました。

・体験で一番印象的だったのは赤ちゃんの抱っこです、頭がすごく重く、ずっと持っているとう腕が疲れました。母も腕が筋肉痛になったと言っていたので、少し気持ちが分かった気がします。両親に感謝です。

・看護師の体験を通して、患者さんに何かをしてあげるときに、一人ひとりちよどいい値が同じではないから、教科書を読んだり話を聞くだけでは絶対に感じたり、覚えたりすることができないということが分かりました。

・リハビリの体験では、実際に現場で使われている機械に触らせてもらいました。子供や老人などが楽しめるよう、VRを使ったものや、スポーツによる肘のけがに対して肘に力がかからないようにする器具など、興味深かったです。

・体験で一番面白かったのは、社会福祉の体験です。砂の上に自分が好きなものを置くことで、人の考えなどを読みとることができるものでした。人それぞれ全く違うものを置いていて、感じ方や考え方が違うなと思いました。